

服用時間に関する処方せん疑義照会の判断における 薬剤師の個人差と解消への対策

高橋浩二郎*、一木孝治*、牛尾敏彦*、佐々木智也、五郎丸剛、江藤精二

日本病院薬剤師会雑誌, 42(4), 477-480 (2006)

Individual Differences in Pharmacists' Judgment Inquiries to the Prescribing Physician about Timing of Drug Administration Seeking Measures for Solution

Kojiro Takahashi*, Takaharu Ichiki*, Toshihiko Ushio*, Tomoya Sasaki,
Takeshi Goromaru, Seiji Eto

抄録 服用時間に関する疑義照会について薬剤師22名にアンケート調査を行った。基本的に服用時間に関連した疑義照会の件数が多い医薬品を対象とした。ナテグリニドや α -グルコシダーゼ阻害剤などでは全員が疑義照会を行うと回答した。リルゾール、リファンピシンあるいはエパルレスタットでは疑義照会の判断が薬剤師によって異なった。処方せんの服用時間が添付文書の記載と異なる場合には必ず疑義照会を行い、その理由を確認することを周知徹底し、処方オーダーリングシステムや疑義照会の院内広報など、いくつかの対応策を行った。

* Department of Hospital Pharmacy, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health

産業医科大学病院 薬剤部